

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
新東京歯科衛生士学校	平成7年1月23日	福原 達郎	143-0016 東京都大田区大森北1丁目18番2号 (電話) 03-3763-2200				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 東京滋慶学園	昭和61年2月1日	中村 道雄	〒143-0016 東京都大田区大森北1丁目18番2号 (電話) 03-3763-2200				
目的	現在の歯科医療業界では、従来の治療をメインにした医療から、予防処置や保健指導を重視する医療に変わってきており、さらに今後の超高齢社会において口腔ケアの必要性等も高まっています。歯科医療職の中で歯科衛生士のニーズはますます高まってきているといえます。医療人としての使命感と倫理観を持ち、自己研鑽に励み業界で活躍する、基本が徹底的に強い、凛とした医療人(歯科衛生士)を養成します。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	歯科衛生士専門課程	歯科衛生士科 II 部	平成25年文部科学省告示第二号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜間	2310	990	420	900	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
240人	260人	7人	30人	37人			
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌3月31日 		成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 学業評価は試験結果、出席状況を合わせて評価する その評価は ・AA(90点～100点) ・A(80点～89点) ・B(70点～79点) ・C(60点～69点) ・D(59点以下不合格)で行いC以上で合格とする			
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月20日 ■冬季:12月25日～翌年1月7日 ■学年末:3月21日～4月5日 		卒業・進級条件	学年ごとに必須単位数を修得し進級する 全科目履修で卒業となる			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的な面談と保護者の巻き込み		課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 特になし <ul style="list-style-type: none"> ■サークル活動 			
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界等 歯科医院、大学病院、歯科メーカー等 <ul style="list-style-type: none"> ■就職率^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 97% ■その他 (平成 26年度卒業者に関する平成27年9月1日時点の情報)		主な資格・検定等	歯科衛生士 上級救命講習			

中途退学 の現状	■中途退学者 6名 平成26年4月1日 在学者 260名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 254名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 2.3%
	■中途退学の主な理由 経済的理由、学力不足	
	■中退防止のための取組 補習授業学習支援、学費サポートシステムの運用、学校カウンセラーとの連携	
ホームページ	URL: http://www.dh.ntdent.ac.jp/	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
 - ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
 - ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。
- (「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。
 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年8月31日現在

名 前	所 属
福原 達郎	新東京歯科衛生士学校
三觜 雅子	新東京歯科衛生士学校
富田 基子	(社)東京都歯科衛生士会
鈴木 恵美	昭和大学歯科病院
青木 薫	医療法人社団 クラジ歯科医院
高橋 友深	新東京歯科衛生士学校
中村 聖之	新東京歯科衛生士学校
今井 リカ	新東京歯科衛生士学校
菊池 俊子	新東京歯科衛生士学校
川島 貴重	新東京歯科衛生士学校

(開催日時)

第1回 平成27年6月11日 17:00~19:00

第2回 平成27年8月20日 17:00~19:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

在学中に、様々な臨床実習や歯科衛生士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨地実習 I	・主として見学を中心とした実習とし、臨床現場における歯科診療の流れを理解しチェアサイドアシスタントワークが出来るようになる。 ・各症例に合わせたアシスタントワークが出来るようになる。	医療法人審美会 鶴見歯科医院、東京駅前歯科口腔外科、はる歯科クリニック、AKデジタルグループ 柿山歯科医院、元住歯科クリニック 他34件
臨地実習 II	・実習指導者の指示のもと安全に配慮した歯石除去、歯面研磨、う蝕予防処置が出来るようになる。 ・スタッフと連携して協同動作、治療内容に応じた行動が出来るようになる。	
臨地実習 III	・業務記録の記述が出来るようになる。 ・各症例に適した患者対応・指導が出来るようになる。	

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修は教員の授業内容・方法及びクラスマネジメント能力を含む指導力を向上させる為に実施する。研修の対象は専任教員、学科長及び教務部長とし、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた研修方法、到達目標、並びに評価指標を定めて実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年8月31日現在

名 前	所 属
三上 久美	武蔵野歯科医師会
藤見 好宣	医療法人社団あすなる会
阿部 陵一	東星学園中学高等学校 講師
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会
富田 基子	(社)東京都歯科衛生士会

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.dh.ntdent.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.dh.ntdent.ac.jp/>

授業科目等の概要

(歯科衛生士専門課程歯科衛生士学科Ⅱ部) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎生物学・基礎化学	生物学、化学の基本を理解し、専門科目の学習の際に、情報、知識を発展させる。	1・前	15	1	○			○			○	
○			医療倫理	医の倫理の原則を学び倫理的判断に基づいた行動が取れるようになる。	1・後	15	1	○			○			○	
○			臨床心理学	臨床心理について学び、心理的要因について理解する。	1・後	15	1	○			○			○	
○			キャリアデザイン講座Ⅰ (コミュニケーション技法含む)	社会人としての身構え気構え心構えを学ぶ。就職活動に必要な履歴書の書き方、面接対策など基本知識を学ぶ。	1・前後	45	3	○			○		○		
○			キャリアデザイン講座Ⅱ	社会人としての身構え気構え心構えを学ぶ。就職活動に必要な履歴書の書き方、面接対策など基本知識を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン講座Ⅲ (就職講座含む)	社会人としての身構え気構え心構えを学ぶ。就職活動に必要な履歴書の書き方、面接対策など基本知識を学ぶ。	3・前	30	2	○			○		○		
○			歯科英語	基本的な英語力を身につけ、英語でコミュニケーションが取れるようにする。	1・前	15	1	○			○			○	
○			解剖学	人体の支持、骨・筋の形態、血管の分布や内臓各器官の構造と動きを理解し、歯科領域との関連性について学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	
○			生理学	生体の様々な臓器や器官の働きと機能、構造について理解する。	1・後	15	1	○			○			○	
○			生化学・栄養学	歯を中心とした口腔の主要な生化学的変化について学ぶ。栄養素の消化、吸収、栄養所要量、代謝について学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	

○		口腔解剖学	顎・顔面・口腔領域の組織や器官の構造と機能について学ぶ。	1・後	30	2	○				○						○
○		歯牙解剖学 (組織発生学含む)	歯の役割の構造と機能の関連を理解し、歯の立体的再現を習得する。	1・後	30	2	○				○						○
○		口腔生理学	口腔領域の様々な器官の働きと機能、構造について理解する。	1・後	15	1	○				○						○
○		病理学・口腔病理学	病気についての基本的事項を理解し、さらに口腔領域の様々な組織に発生した病変について学習する。	1・後	30	2	○				○						○
○		薬理学・歯科薬理学	歯科医療で使用する薬剤や全身疾患の治療薬を知り、身体における薬の働きを学ぶ。	2・前	30	2	○				○						○
○		隣接医学	内科的疾患に対する正しい知識を学ぶ。	1・前	15	1	○				○						○
○		微生物学・口腔微生物学	微生物の構造や性状を学びプラーク形成と齲蝕、歯周病の発生機序、細菌と宿主の関わりを学ぶ。	1・前	30	2	○				○						○
○		口腔衛生学Ⅰ	口腔の疾患の予防や、健康増進のため、幅広い分野の知識と技術を習得する。	1・前	30	2	○				○						○
○		口腔衛生学Ⅱ	口腔の疾患の予防や、健康増進のため、幅広い分野の知識と技術を習得する。	1・後	30	2	○				○						○
○		衛生統計学	口腔の疾患の予防や、健康増進のため、幅広い分野の知識と技術を習得する。	1・後	15	1	○				○						○
○		衛生学・公衆衛生学	人間の健康問題と取り巻く環境因子との相互関係を学ぶ。	1・後	30	2	○				○						○
○		社会福祉論	日本の福祉の現状、介護保険制度について理解するとともに、高齢社会における保健・医療について考えを深める。	3・前	15	1	○				○						○
○		衛生行政・社会福祉	関係法規を学び社会保障、社会福祉、医療保険制度についても学習する。	3・前	30	2	○				○						○
○		歯科衛生学総論	歯科衛生士として、社会に果たすべき役割を十分理解させる。	1・前	15	1	○				○						○

○			歯科臨床概論	歯科診療、歯科疾患の概略と体系を学ぶ。	1・後	15	1	○				○			○
○			保存修復学	歯の硬組織に対する保存修復の原理と方法を学ぶ。	2・前	15	1	○				○			○
○			歯内療法学	歯髄疾患や根尖歯周組織の疾患に対する予防および治療方法を学ぶ。	2・前	15	1	○				○			○
○			歯周治療学	歯周病の原因や進行のメカニズムを学習し、適切な予防と治療法を学ぶ。	2・前	15	1	○				○			○
○			歯科補綴学	歯科補綴治療を理解し、歯科補綴治療における歯科衛生士の役割を習得する。	2・前	30	2	○				○			○
○			口腔外科学	口腔領域の様々な器官の働きと機能、構造について理解する。	2・前	30	2	○				○			○
○			小児歯科学	発育期にある小児の歯科医療を学び、診療補助、口腔管理法を習得する。	2・前	15	1	○				○			○
○			歯科矯正学	矯正学の基本的事項を学び、治療の流れを把握して矯正治療時の歯科衛生士の役割を学ぶ。	2・前	15	1	○				○			○
○			高齢者歯科学	要介護を含めた高齢者の歯科医療について学び、知識と技術と態度を身につける。	2・後	15	1	○				○			○
○			障害者歯科学	障がい者の歯科医療と、口腔保健管理について学ぶ。	2・前	15	1	○				○			○
○			歯科予防処置論Ⅰ	歯科予防処置に必要な知識を学び、予防的歯石除去においては手技を習熟させ、技術を向上させる。	1・前	60	4		○			○			○
○			歯科予防処置論Ⅱ	歯科予防処置に必要な知識を学び、予防的歯石除去においては手技を習熟させ、技術を向上させる。	1・後	30	2		○			○			○
○			歯科予防処置論Ⅲ	歯科予防処置に必要な知識を学び、予防的歯石除去においては手技を習熟させ、技術を向上させる。	2・前	30	2		○			○			○
○			歯科保健指導論Ⅰ	各集団、年齢に合わせた口腔保健管理ができるよう、口腔清掃法、コミュニケーション法、指導法を習得し、個々の課題に適切な保健指導が行なえるようになる。	1・前	30	2		○			○			○

○		摂食・嚥下機能療法	口腔領域の様々な器官の働きと機能、構造について理解する。	2・前	30	2		○	○	○					
○		歯科衛生士総合講座Ⅰ	国家試験合格に向けて、出題科目すべての対策授業を受ける。	3・後	90	6	○		○	○					
○		歯科衛生士総合講座Ⅱ	国家試験合格に向けて、出題科目すべての対策授業を受ける。	3・前後	60	4	○		○	○					
	○	歯科衛生士総合講座Ⅲ	国家試験合格に向けて、出題科目すべての対策授業を受ける。	3・後	30	2	○		○	○					
合計					56科目		2,310時間(114単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学年ごとに必須単位数を修得し進級する。 全科目履修で卒業となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。